

「筆記と面接頼みは危険。会社の未来 魂込め示して」



中小企業の採用のコツを披露する近藤悦康社長

札幌商工会議所は5日、中小企業を対象にした「新卒採用最前線セミナー」を市内のホテルで開催した。社員20人規模にもかかわらず、新卒者が毎年約1万人も応募登録する人事コンサルティングのLegaseed（レガシード・東京）の近藤悦康社長が、従来の枠にとられない柔軟な採用活動を提唱した。

採用担当者ら約130人が参加。同社は、数カ月にわたり社員と同じような仕事を体験してもらおうという実践型インターンシップで知られる。近藤社長は「プロ野球のスカウトはプレーを見て（選手を）ドラフトにかける。筆記と面接に頼る採用は危険。何とでも書ける自「PRを私は見ない」と強調。「大企業でなければ駄目という学生は実は3割程度。未来の会社像を魂を込めて示すことができれば、中小企業でも人は集まる」と力を込めた。

近藤社長はまた「採用活動は学生を選んでいるようで、学生に選ばれるということ。ほしい人材が他社に行った場合は、（自分の会社に）何が足りなかったを分析し、会社を磨き上げて」とエールを送った。

（瓦木毅彦）

新卒1万人応募の会社社長 採用のコツ 中小に指南